

はじめに

日本トップリーグ連携機構は、平成 21 年度文部科学省「スポーツの環境に関する調査研究事業」の委託をうけ、「トップアスリート活動基盤整備事業」の結果をふまえ、スポーツクラブ経営、放送、会計、法律、地方行政、スポーツビジネスの経験と知識を持つ精鋭メンバーによってプロジェクトチームを立ち上げた。

またアドバイザーメンバーとして、トップレベルのアスリートや、その所属先組織の関連する環境について広く知識を持つメンバーにも参画いただいた。

調査は、スポーツクラブ経営者へのインタビュー調査、および日本オリンピック委員会強化指定選手とその選手の所属先に対する質問紙調査を行った。報告書には、インタビュー対象となったクラブの関係者の生の声を反映させるべく、プロジェクトメンバーとクラブ関係者が一堂に介したセミナー（報告会）や、スポーツクラブの経営改革に関する集中討議の結果が反映されている。

また審判もスポーツの環境にとって重要な役割を果たすという信念のもと、トップリーグの審判員に対しても質問紙調査及び各リーグ審判長へのインタビュー調査を実施した。これまで見過ごされてきた審判のおかれた環境についても今後検討すべきことが浮き彫りにされた。

本報告書は、これまでのスポーツ環境を支えてきた既存の組織、既存のシステムについて歴史的経緯についても敬意を払いつつも、現状のトップレベルのアスリートやその所属組織、そして審判の実態を正確に映して、わが国のスポーツシステムのよりよい変革をめざして、調査結果から大胆な提言をおこなった。

最後に、本報告書によって、トップレベルのアスリートや審判が大事にされるわが国のスポーツの環境が整備されることを切に望みたい。

スポーツ環境の整備に関する調査研究事業プロジェクトリーダー
日本トップリーグ連携機構事業推進委員会アドバイザー
筑波大学大学院人間総合科学研究科准教授

高橋 義雄